



コロナ禍による生活の変化と「時間」のあり方について

【目的】人々がコロナ禍において、どのように「時間」と向き合い、どのような「時間」のあり方を選好するかを明らかにすること

新型コロナウイルスと 観光移動（非日常）

【分析方法】

各都道府県の感染状況が地域間の観光移動（宿泊のみ）に与える影響を重力方程式モデルを用いて推定。

【分析結果】

発着地の感染リスクの低下はともに観光移動を促進。

【研究の含意】

観光促進策と同時に、発着地の感染抑制策は観光産業においても重要。

オンライン講義 に対する選好（日常）

【分析方法】

オンライン講義の選好に影響を与える因子を順序ロジスティックモデルを用いて推定。

【分析結果】

自宅での活動に退屈せず、時間管理が徹底できる人、「現在」を重視し過ぎる人や計画と実行が整合的でない人ほどオンライン講義を選好。

【研究の含意】

人々の時間に対する選好は、合理性だけではなく、一種のバイアスを含んでいる。

コロナ禍における 自己変容（日常）

【分析方法】

本学の学生に対するインタビューを行い、インタビュアーとの「語り（ナラティブ）」の内容を定性的に分析。

【分析結果】

「語り」の中で、自己が多様に変化し、かつ時間的に存在することを明らかになった。そこでの自己とは実体的ではなく、実存的な存在である。

【研究の含意】

学生との「語り」の中で、「自己」という存在を実存論的に捉えることで、近代的な自己・時間観の限界を明らかにした。



山口大学研究プロジェクト
コロナの時間学 ～新型コロナウイルスが人間と社会に対して与える時間的影響～

研究成果報告書

主研究者	森 朋也	所属	教育学部小学校教育コース 国際教育選修
共同研究者	田本正一、Denes PERLAKY、金承華		
研究課題名	コロナ禍による生活の変化と「時間」のあり方について		
研究内容と成果の概要	<p>本プロジェクトでは、大きく3つの研究を進めることができた。</p> <p>一つ目は、新型コロナ感染症と観光移動（非日常）に関するマクロ的な研究である。新型コロナウイルスの感染は、観光移動にとってリスク要因として働くことが考えられよう。そこで、この研究では、新型コロナウイルスの感染リスクが都道府県別の観光移動をどの程度抑制していたかを計量経済学の手法を用いて実証を行った。具体的には、都道府県間の観光移動を地域間でのサービスの取引と考えて、貿易理論で利用される「重量方程式」を応用して、発着地の感染状況が観光移動を抑えたかを推計した。この研究は応用経済学会で研究報告を行い、さらに、その成果は『新型コロナ感染の政策課題と分析』（日本経済評論社）に掲載されている。</p> <p>二つ目は、ナラティブアプローチを用いた「時間と自己変容」に関する質的な研究である。この研究では、本学の学生を対象にインタビューを実施し、その会話内容を一つのナラティブとして捉えて実存論的な分析を行った。具体的には、コロナ禍の時間において、学生がどのような自己変容に直面したのかについて実存論的に検討を行った。分析の結果、インタビューでは、多様な自己を時間として語る会話が観察された。未来の自己、あるいは過去の自己について語り、時には未来や過去の自己と現在の自己をそれぞれ関係づけて語られていた。例えば、未来の自己について羨望として語る場合がある。一方で、制限された状況のなかであるべき自己についても語る。過去や現在についても同様である。つまり、対象学生は、未来・過去・現在について多様に語ることで自己を明らかにしているのである。本研究では、さらに、この多様な自己と時間との関わりをハイデッガーの「時間の概念」から分析を行った。</p> <p>三つ目に、大学生を対象にコロナ禍における生活時間とオンライン講義の選好の関連性について定量的に分析を行った。大学生を対象としたアンケート調査を実施した。分析では、オンラインへの選好を被説明変数として、コロナ禍の生活状況や生活時間の印象・評価を説明変数とした順序ロジットモデルを用いた。また、人びとが合理的に時間を管理できていない可能性がある。そこで、分析では行動経済学で用いられるある種のバイアス（現在バイアスやナイーブ性）も説明変数に用いた。推定から、時間管理ができる人がオンライン講義をより好み、自宅での活動に退屈している人ほどオンライン講義を好まないことが主に明らかになった。</p>		

研究進捗状況・研究成果の公表状況等

論文、学会等発表、実データの利用状況、研究の有用性を広めるための活動など

研究報告

- ・ 森朋也, 金承華, 中平千彦, 中村光毅, 藪田雅弘「新型コロナウイルス感染症と観光: 観光移動の変動パターン分析と観光政策」2020年度秋季大会日本応用経済学会, 2020年11月21日。
- ・ 森朋也, 金承華, 中村光毅, 藪田雅弘「新型コロナウイルスが観光移動に与える影響: 重量方程式モデルを用いたパネルデータ分析」第22回時間学カフェ, 2021年8月5日。

論文

- ・ 森朋也, 金承華, 中村光毅, 藪田雅弘 (2021)「新型コロナウイルス感染症と観光: 観光移動の変動パターン分析と観光政策」焼田党, 細江守紀, 藪田雅弘, 長岡貞男編『新型コロナ感染の政策課題と分析: 応用経済学からのアプローチ』日本経済評論社, pp. 183-202。

その他特記事項

なお、本プロジェクトで実施したインタビュー調査とアンケート調査は、それぞれ、山口大学の「人を対象とする一般研究に対する倫理委員会」の審査を通じたものである。